



会 長 小林 幹夫 青少年奉仕 橋本八右衛門
副 会 長 道尻 誠助 幹 事 正部家光彦
クラブ奉仕 道尻 誠助 会 計 佐々木泰宏
会長エレクト 紺野 広 会場監督 峯 正一
職業奉仕 妻神 和憲 直前会長 小井田和哉
社会奉仕 地代所久恭 副 幹 事 松本 剛典
国際奉仕 中村 稔彦 会計補佐 山村 和芳

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
http://hachinohe-rotary.org/
会報・広報委員長 峯 正一 同副委員長 荒谷 達也
同 委 員 廣田 茂 同 委 員 道尻 誠助

国際ロータリーのテーマ — 2022~23 — 八戸ロータリークラブのテーマ
イマジン ロータリー ロータリーの力を信じよう!

国際ロータリー会長 ジェニファー・ジョーンズ

八戸ロータリークラブ会長 小林 幹 夫

10 月 は 米 山 月 間 で す

第 3 2 4 3 回 例 会 2 0 2 2 . 9 . 2 8

会 長 要 件 小林 幹夫 会長



9月も下旬となりました。今週末の10月1日、2日は第2830地区大会です。ここ数年はコロナ禍でオンラインで開催されるなどじゃっかん変則的な形でしたが、今年はオンラインではなく、久しぶりにリアルな地区大会が開催されることになりました。

毎年それぞれの地区ごとに地区大会は開かれています。青森県はだいたい10月上旬に開かれるのが慣例になっています。その目的は皆さんがロータリーの最新情報、地区内の活動状況についていろいろ勉強して、さらに他のロータリアンと交流を深めましょうというのが地区大会の目的です。いくつかのプログラムがありますが、RI会長代理という方がいらっしゃって、その中で最新の国際ロータリーの状況の説明、あるいは地区内の活動状況の報告、あるいは最後の方では懇親会があったりします。

わたしがロータリーに入った10年くらい前まではバスを貸し切って十数人で弘前や青森

に行き、温泉旅館に泊まるという感じでしたが、それもコロナ禍でピタッと止まって、何となくフェードアウトするような雰囲気でした。今年は八戸から行くのが14人です。来年は築館さんが主催で地区大会をやることになっていますので、その視察を兼ねて、わたしがフルで参加するのも数年ぶりですが参加します。

幹 事 報 告 正部家光彦 幹事



○今、会長からもご連絡がありました。今週末のむつ地区大会にはわたしも参りますが、14名が参加します。ゴルフコンペに参加する方、歓迎晩餐会から参加の方、本会議に参加する方、それぞれ時間帯と会場をお間違えないように、むつにいらしてください。

委 員 会 報 告

親睦・会場委員会 岡崎孝文委員長
○ニコニコボックスの報告



- 誕生祝 道尻誠助
夏堀礼二さん
小林幹夫・夏堀礼二さん
正部家さんよろしくお願
い
します。

橋本八右衛門さん 今週末は日本酒の日。街
にくりだしましょう。

紺野 広・小井田和哉 } ニコニコデー
山村和芳・中村稔彦さん }



「新聞記事にみる開業当時の八戸カントリークラブと もう一つのゴルフ場計画」

八戸観光開発株式会社代表取締役社長 正部家 淳 司 さん



数年前にゴルフダイジェス
トというゴルフ雑誌でいろい
ろなゴルフ場を紹介していて、
その時に掲載されたものです。

「産業は八戸漁港など5つの
港を利用して漁業中心だったのが、昭和36年
に新産業都市に指定されてから、三菱製紙、
東京鉄鋼など製紙、非鉄金属関連の工場が進
出し、工業団地が生まれていた。この勢いを見
て、八戸には工業団地にふさわしいゴルフ場
が必要と考えた人物がいた。青森財界人の
一人、和田重夫だ。和田には階上町に広大な
土地を所有する正部家佑介という大地主の親
戚があった。和田は正部家から40万坪の借地
契約をし、ほとんど独力で27ホールのゴルフ
場を作ろうとした。……開業当時はわたしの
父の正部家佑介も経営にはまったく携わって
おらず、土地を貸していただけでした。

八戸にゴルフ場が現れたのは早くも昭和32
年馬淵川河川敷に9ホール、2,972ヤード・
パー36の八戸ゴルフクラブが開場。青森県第
1号で自社設計のほとんど手作り。会員は地
元だけの300名と小さい集まりである。

和田の計画は27ホール、本格コース。候補
地は八戸中心部から約12km、車で20分、国道
45号線沿いに広がるアカマツを主とした高低
差18mの緩やかな地形の凍体。施工に大手の
鹿島建設、コース設計者には関東地区で人気
上昇中の発地朗という計画が進められた。

昭和49年7月15日、中コース3,327ヤード・
パー36、西コース3,431ヤード・パー36、計
18ホールを仮開場。昭和50年6月、南コース
3,504ヤード・パー36を加え、27ホールで本
開場。フェアウェイに姿の良い独立樹を残し、
集計とプレイアビリティ効果をあげている
のが特徴。発地が影響を受けた井上誠一が大
洗ゴルフクラブ、大利根ゴルフクラブなどで
試みた自然に語らせる手法に通じている。樹
林帯の上を越して打たせる豪快なホールもあ
り、人気上昇。

開場後5年の昭和54年には各国プロ参加の
ペプシ・ウイルソントーナメントを開催、ビ
ルマのミヤマエが通算10アンダーで優勝して
いる。コースの評判は上々だったが、おりし
も全国的な経済不況が八戸都市圏をも例外と
していなかった。経営主の和田は八戸観光開
発の経営権を用地40万坪の権利者である正部
家佑介に譲渡、交代した。社長は佑介が階上
町町長を務めていたので立場を慮って、弟の
敏浩が就任している。

会員の大半は八戸在住、八戸ゴルフクラブ
会員300名もほとんどが入会。青森市からも
多いのは創業者の和田重夫が青森出身だった
名残りか。歴代理事長は八戸商工会議所会頭
が就任するなど郷土意識も強いようだ。

八戸民友新聞の記事から

「八戸平原に二大ゴルフ場 今後のレ

ジャーの花形に「八戸はようやく本格時代へ。どうなる将来のレジャー産業」とひじょうにわくわくするような見出しです。

階上岳山麓の西北に開けた丘陵地、1,240,000㎡、総工費9億円、鉄骨2階建延べ165,000㎡のクラブハウスを持ち、27ホール、10,322ヤードの大ゴルフ場を今年の9月に仮オープンしようとする八戸観光開発株式会社。さらにその国道45号線を隔てたところに27ホールの、これまた国際的なゴルフ場を建設することになった。

太平洋シーサイドゴルフクラブの出現で、当地域は一躍脚光を浴びることになった。従来まで八戸周辺の本格的ゴルフ場といえば、六戸町の国際カントリークラブだけ。もちろんコンディション作りのためのコートは馬淵川城下ゴルフ練習場があるとはいうものの、コンペになるとやはり六戸町まで出かけなければならない。ところが距離的に多少遠いことから、一日の予定でなければじっくり楽しめない。

ところが今度の階上岳山麓は市内から12kmの地点で、しかも国道45号線沿いという絶好の場所にあるだけに今後が楽しみ。まず八戸観光開発株式会社のゴルフ場は……略。新ゴルフ場は国道45号線沿いで、市の中心部から車でわずか12分以内。八戸工業大学から2分と全国的にもまれに見る都心部に最も近く、出勤前は昼食時にもその気になりさえすればゴルフをすることができることから、モーニングサービス制も採用されることになっている。同社の発起人には八戸市内の一流経済人が名を連ねているが、役員には代表取締役社長 木幡清甫。

一方後者の太平洋シーサイドゴルフクラブは株式会社大商がゴルフ場を中心に階上村のバックアップで実現するもの、同社は養鶏部門の総合商社で年商22億円の実績をもち、今年48年度は50億円を目標としている。第1次計画はゴルフ場とレストハウス。第2次計画はプール、テニスコート、乗馬クラブ。第3次計画は母子センター、保育園、老人ホーム。第4次計画は観光ホテルと貸別荘の建設が予

定されている。さらに将来は階上観光開発促進協議会の計画とにらみ合わせて、スキー場、スケート場、キャンプ場なども考慮されている。

ゴルフ場は国道45号線のすぐそばの種差海岸から階上村耳ヶ吠地区で総面積1,811haのうち、とりあえず120haにアウトインの国際コンペ27ホールが作られることになっている。地形は種差海岸と太平洋が一望できる。またクラブハウスは地下1階、地上2階、延べ2,400㎡のもので、400台収容できる駐車場も予定されているなど、ゴルフ場に関する話題が豊富で、ゴルフ愛好者にとっては堪えられない年になりそうな気配が強い。

今あるゴルフ場の国道を挟んで向かいにゴルフ場とその他にプールなどのリゾートの計画があって、これがもし本当にできていたら、わたしたちの八戸カントリークラブも今、存在しているかどうか微妙です。こちらのシーサイドゴルフクラブは階上村の全面的なバックアップで進んでいたわけです。

当社は八戸経済界の方が主に応援してくださいました。土地取得の面ではだいたいコアとなる部分は自分たちで準備できました。細かいところは交換したり、土地の売買があったかと思います。45号線反対側のゴルフ場と境界線などで当時はいろいろもめて、当時はかなり苦勞したと聞いています。

八戸はようやく本格時代へ。どうなる将来のレジャー産業

八戸市は長い間、“観光”“レジャー”不在といわれてきたが、昨年の八戸市の年中行事の観光客が初の200万人台に乗せたことから、市当局をはじめ観光関係が県立公園種差海岸、蕪島海岸、そしてこのところ人気上昇中の階上平原を中心としたレジャー産業を交通ネットワークの整備などで利便を増すよう検討するなど、八戸市もいよいよ本格的なレジャー時代を迎えることになった。

テレビ、電気冷蔵庫、クーラー、マイカー、マイホームのいずれを見ても出現したころはぜいたく品だったことには違いないが、今ではすっかり生活の必需品になっている。

となると、現代の人間が求めていることは

何か、ということになると、一口にいてレジャー。忙しい日本にも週休2日制が話題になってきている昨今、ひとしおその感が強い。それだけでなくも病める現代人にとって、レジャーは生理的にも必要と叫ばれている。八戸市の総合本格的なレジャー施設となると、それまでのその必要性をまくしたてた人でも首をかしげたくなるほど少なく、パチンコ、ボウリングに代表されるだけ。その結果、脱八戸の現象がいつまでも続き、八戸はレジャー施設のない町との折り紙がつけられることになる。

そこで生まれたのが、昨今県立種差公園、蕪島海岸をレジャー用に活用すべし、との声。ちなみに昨年の種差蕪島一帯にかけて観光客は167万人。特に県外客が全体の40%を占めて、他県からもようやく注目されつつある。昨今になって、ようやく淀の松原に本格的なキャンプ場、ファイヤーサークル、休憩所、共同炊事場などが設けられ、さらに今シーズンは海浜学級も予定されている。

また、隣の市営白浜海水浴場も市では今年の6月までに新しく配管し直し、明るい海水浴場作りに懸命。続いてうみねこで有名な蕪島海岸は全国的にも貴重なところだけに、今後の地区に水産都市を象徴する本格的な水族館建設が望まれており、それに付属したレジャー施設を誕生させると日本屈指の水揚げ基地八戸港を抱えているだけに素晴らしいのではとされている。

一方、このところにわかに脚光を浴びてきているのが、国道45号線沿いの階上岳を中心としたその周辺の平原。この45号線全線開通の頃にはすでに民間のマンモス住宅団地が続々と誕生すれば、これに併行して進められているのがレジャー産業。その代表的なものとして挙げられるのが八戸観光開発株式会社、太平洋シーサイドゴルフクラブの二大ゴルフ場が予定され、この平原の地形は種差海岸と太平洋が一望でき、景色も良く、しかも林間、ため池など多彩なうえ、八戸市を中心とする青森県南および岩手県北を含めての北奥羽圏の中心地で、しかもゴルフ場を中心とする県立

公園の観光地、レジャー、レクリエーション、ベトナムなど職場、家族ぐるみで楽しめる新天地として最も期待されているところである。

とはいうものの、日本の現状としては時間面ではテレビを中心とする静的なレジャーが、支出面では商業娯楽が中心。祭りに象徴される行動的レジャーは都市化の発展で失われることがない。日本独特の大衆的な静的レジャーを楽しむにはあまりにも目まぐるしい時代といわれている。このところ、ようやく東北地方でもレジャー活動の多様化がみられるが、本当の意味でまとまった時間的なゆとりがないのが実情のようだ。

ともかくにも、今年の八戸のレジャー産業は従来にない大きな変化を及ぼすことだけは間違いがないところ。

50年前の高度経済成長期の記事です。こういう時代に生まれたかったというのが、わたしの正直な感想です。ひじょうに右肩上がり、少子高齢化、人口減少の概念がまったくなく、活気のあった時代だったと思いました。

それを受けて資料を付けました。ゴルフ業界では2025年問題といわれています。2025年頃から団塊の世代の方がゴルフ離れをしたり、労働力の確保でも苦労したり、人口減少などいろいろな問題があると思います。2030年には全国のゴルフ場の3割がなくなると言われていました。転用も含めてのことだと思います。

この記事でみるように、建設するときいろんな方が協力してくれて、今のゴルフ場があるかと思いますので、今後も地域に支えられてきたということで、きちんとした状態でゴルフ場を続けていきたいと思っています。

会社のスローガンは「柔軟に前進 満足度包容」柔軟に前進はお客さんの要望がいろいろあったときに、0か100かということではなく、なるだけできる方法を考えて近づけましょう。満足度包容 当然お客さんの満足度もありますが、従業員のほうの満足度、帰属意識を会議などでも伝えてきています。将来的には安全で正しいゴルフ場作りを通じて、地域の皆さんの健康作りと地域活性化に貢献していきたいと考えています。